

中部大学春日丘高等学校

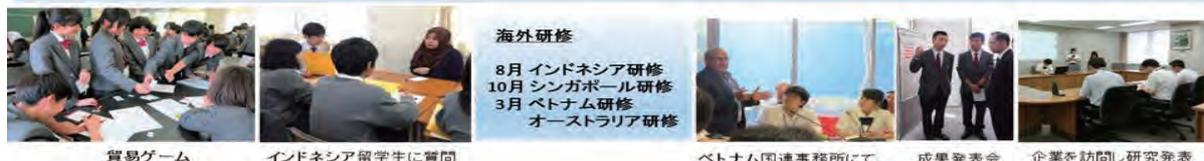
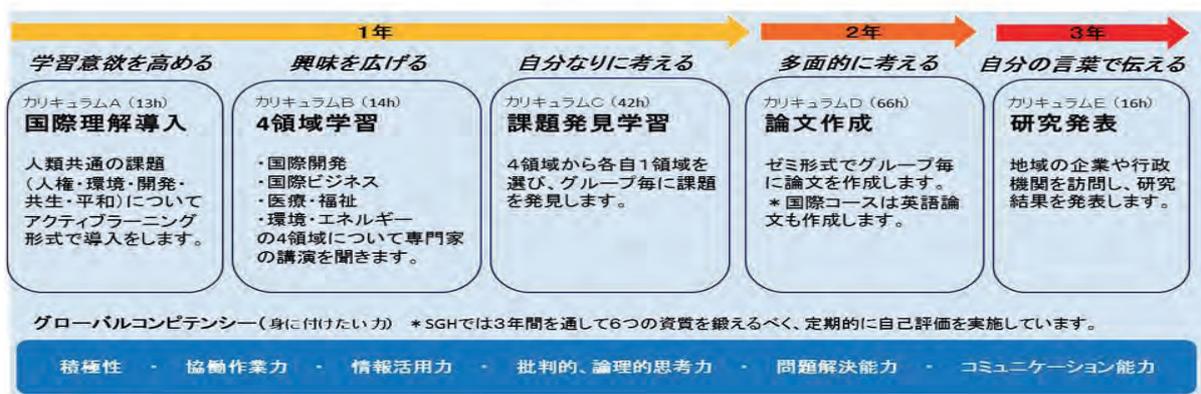
中部圏のグローバル化を推進する 若きパイオニアの育成

【構想の概要】

中部大学の全面協力による少人数グループゼミ形式で東南アジア、東アジアを主な研究領域とし、4つの研究分野（国際開発、国際ビジネス、環境・エネルギー、国際医療・福祉）を設定し、学校設定科目「グローバル課題研究」において課題探究型学習をする。春日井商工会議所、グローバル展開をする地域企業、海外提携大学・提携高校と連携し、国内・国外のフィールドワークを効果的に位置付ける。さらに、学校設定科目ロジカル・シンキング（国語）、クリティカル・ライティング、イングリッシュ・プレゼンテーション（英語）を教科横断的に関連付け、グローバルコンピテンシー（①積極性 ②協働作業力 ③創造力（問題解決能力） ④批判的・論理的思考力 ⑤判断力（情報活用能力） ⑥コミュニケーション能力）を有するグローバル・リーダーを育成する教育カリキュラムを研究する。



スーパーグローバルハイスクール (SGH) 3年間カリキュラム



教育課程（一部抜粋）		国際コース			啓明コース			進学/特進コース		
教科	科目	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
SGH	グローバル課題研究	2	2	2	2	1	1	1	1	1
	ロジカルシンキング	1	1	1						
	クリティカルライティング	2	2	2						
	イングリッシュプレゼンテーション	2	2	2						

* 数字は単位数

I SGH カリキュラム開発（教科の取り組み）について

1 グローバル課題研究（3カ年 3～6単位）

＜グローバル課題研究を通して得られる力＞

- (ア) 課題発見能力・設定力や、協働学習を通し他者と協力して問題解決できる力を身に付ける。
- (イ) 論理的思考力・表現を高めることができる。
- (ウ) 多面的かつ総合的なものの見方を身に付けることができる。
- (エ) 知的好奇心が喚起され、大学での学びに対する興味・関心が高まり、自律的に学び続ける意欲を醸成できる。

上記の目標が実現でき、グローバルリーダーを目指すためのグローバルコンピテンシー（積極性、協働作業力、情報活用能力、批判的思考力、コミュニケーション能力、問題解決能力）を育てることが本カリキュラムの目的である。3年間の学びをAからEの5段階に分けて学びを深化させていくカリキュラムを作成し、年2回の自己評価票の集計数値から各能力の伸長を測っている。

＜第1学年＞

- A 参加型学習による国際理解教育
- B 4領域（国際開発、国際ビジネス、環境・エネルギー、医療福祉）の概要理解（専門家講演）
この間に領域の選択とグループ編成
- C 問題認識学習、情報収集、留学生との意見交換、校外学習
この間にプレゼンテーション

＜第2学年＞

- D ゼミ形式での研究、論文作成（国際コースは英語論文も作成）
この間にインドネシア・シンガポール・沖縄・ベトナム研修

＜第3学年＞

- E プロジェクト提案作成（国際コース）
また、「グローバル課題研究」の横断的学習活動として位置付けながら批判的思考力、コミュニケーション能力を高めることを狙い、英語科目「クリティカルライティング」「イングリッシュプレゼンテーション」、国語科目「ロジカルシンキング」を新設した。

2 クリティカルライティング（3カ年 6単位）

この科目は、ネイティブスピーカーの指導により、

国際コースの教科として実践している。グローバル課題研究の内容を英語で論述することを主眼に論理的思考力、情報収集力、発進力を向上させることを目的としている。イングリッシュプレゼンテーションやロジカルシンキングといった他の科目との相乗効果も期待でき、英語で書くスキルを身に付けることができる。

3 イングリッシュプレゼンテーション（3カ年 6単位）

この科目は、英語の会話、プレゼン能力の向上を意図している。スピーチやディベート、ディスカッションの技術を磨き、英語で発信して自分の考えを相手に伝えるスキルを身に付けることができる。グローバル課題研究との横断型の授業展開を心掛け、グローバル課題研究の内容を利用して、科目の目的である発信力向上を確実に実現している。その成果は各種発表の場における生徒のプレゼンテーション力に現れている。

4 ロジカルシンキング（3カ年 6単位）

ロジカルシンキングは国際コース国語の一科目として設定している。他者とのコミュニケーション能力を高めるためペアワークやグループワークを活用し、フィンランドメソッドの手法を用いて実践している。第1学年では論理力と表現力に力点を置き、第2学年では多角的なもの見方を養う批判的思考力やコミュニケーション能力の向上を目指している。

II 国際交流プログラムについて

従来のオーストラリア語学研修、シンガポール研修に加えて、SGH 指定後にインドネシア研修、ベトナム研修、オーストラリア短期・中期留学プログラムが生まれた。シンガポール、インドネシア、ベトナム研修では、「グローバル課題研究」の探究学習に基づき、現地の国際機関、企業、大学、高校等を訪問し、現地で探究活動をしている。また現地校の生徒も本校を毎年訪れ、相互に交流している。

さらに、インドネシア、ベトナム、タイ、韓国、カナダ、オーストラリアの海外6か国の提携校8校より生徒を招き、3泊4日のホームステイプログラム「Haruhigaoka SDGs Global Meeting」を開催し、SDGsをテーマにした協働学習や課題研究発表会を実施している。